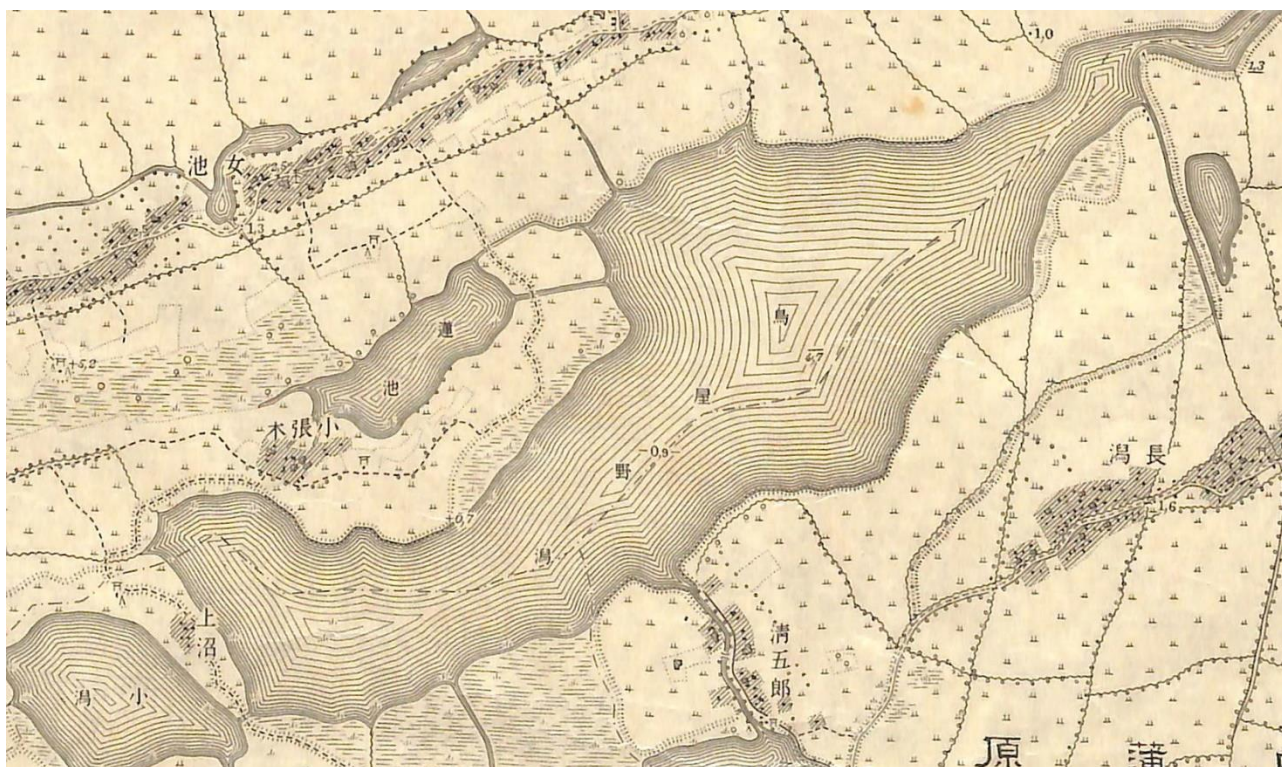


県立図書館で調べよう

# 新潟県の土地

地盤・地歴・ハザードマップなど

近年、地震や洪水など様々な自然災害が発生しています。そのような中で、「家を建てるための土地を探しているけど、どの辺だと地盤が良いのだろう。」「今住んでいる場所が地震などの災害に対して安全なのかが気になる。」といった疑問をお持ちの方に参考になるような資料を集めました。



「2万5千分の1地形図 新潟南部」  
昭和10年発行（現在の県立図書館付近）

新潟県立図書館



## 目次

- 1 地盤などの土地の状況を調べる . . . . . 1
- 2 土地の歴史・災害地名を調べる . . . . . 4
- 3 地図類で昔の様子を調べる . . . . . 5
- 4 ハザードマップを調べる . . . . . 6

## 凡例

『 』内は図書または雑誌のタイトル。( )内カタカナはタイトルの読み。

「 」内は論文のタイトル。

タイトルの後は、版・巻次、著編者、出版社、出版年、当館請求記号。請求記号は [ ]内に記入。

資料には館外貸出できない資料もあります。貸出の可否は、蔵書検索の「取扱区分」で確認してください。「取扱区分」に「禁帯」とあるものは、館外貸出できません。

閲覧の際に申請が必要な資料もあります。閲覧希望の際は、調査相談窓口で申請してください。

地形図などのデータベース化していない資料は、当館ホームページ及び閲覧室内の検索端末で検索してもヒットしません。利用の際は、調査相談窓口へ請求してください。

# 1 地盤などの土地の状況を調べる

当館所蔵の以下の地図類で土地の地盤や高低などを調べることが可能です。

## 地形図

多目的に使用できるよう、基本的な情報（土地の高低差や起伏、水系、植生、土地利用などが表現されている地図です。縮尺として、5万分の1、2万5千分の1が挙げられます（「新潟港」「新潟駅」「鳥屋野潟」については1万分の1のものも所蔵しています）。地域によっては、明治期のものから所蔵しています。

各地域の地形図の所蔵状況については、当館ホームページ内「地図目録」（[https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page\\_id=536](https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=536)）を参照していただくか、調査相談窓口にお問い合わせください。

## 地盤図（地質断面図・ボーリング柱状図）

地質断面図は、地下の地層の分布を断面図で示したものです。その地域の地下がどのような地層で構成されているかを知ることができ、地盤の良し悪しの参考になります。

また、ボーリング柱状図は、その地点の地下地層の構成と固さを知ることができます。N値（ハンマーの打撃回数）が高いと、一般的に地盤が固いとされます。

当館では、以下の地盤図集を所蔵しています。

・『『新潟県地盤図』および『新潟県地盤図説明書』』新潟県地盤図編集委員会／編 新潟県地質調査業協会 2002 [N511/N725]

4枚の地図（「新潟県地盤断面位置図」、「新潟県地盤図」1～3）及び説明書で構成されています。「新潟県地盤図」では、各地域の地盤断面図が示されており、そこにボーリング柱状図も記載されています。

- ・『新潟県平野部の地盤図集』新潟平野編・柏崎高田平野編 建設省  
北陸地方建設局北陸技術事務所／編 北陸建設弘済会 1981  
[N511／7]

- \*各巻内容：〔1〕解説およびボーリング台帳  
〔2〕ボーリング位置図  
〔3〕地形分類図およびN値等深線図・地質断面図  
〔4〕ボーリング柱状図

なお、新潟平野編の〔4〕は、以下のように地域ごとに分かれています。

- 〔1〕村上・新発田・新潟北部など
- 〔2〕内野・新潟南部・水原など
- 〔3〕巻・新津・弥彦・村松など
- 〔4〕加茂・三条・長岡・小千谷など
- 〔5〕小出・十日町・越後湯沢など

## 土地条件図

防災対策や土地利用を目的として作られ、土地の成り立ちや山地や平野などの地形分類について色で示したものです。

当館では、中条、新発田、新潟、新津、内野、弥彦、三条、長岡地域のものを所蔵しています。発行年は昭和62年～平成5年で、いずれも縮尺は2万5千分の1です。[データベース化していない資料です。利用の際は、調査相談窓口へ請求してください。]

## 活断層図

活断層の位置や地形がわかる地図です。当館では、以下の活断層図及び活断層が表示されている地図を所蔵しています。

- ・『長岡』国土地理院技術資料 改訂版 国土地理院／著 日本地図センター 2001 [N454／K045]

- \*1枚ものの地図上に活断層が示されています（縮尺2万5千分の1）。このほかに、十日町、高田、新発田、新津、小千谷地域のものを所蔵しています。

- ・『日本の活断層地図』北海道・東北・新潟活断層地図 中田高／監修，今泉俊文／監修 人文社 2005  
\*付録の「東北・新潟活断層地図」内に新潟県内の活断層が示されています。
- ・『地質図幅 新潟及び内野』産業技術総合研究所地質調査総合センター／編 産業技術総合研究所地質調査総合センター 2016  
[データベース化していない資料です。利用の際は調査相談カウンターへ請求してください]  
\*越後平野の地形、地層などが1枚の地図にまとめられています。そこに角田・弥彦断層も表示されています。

## 土地分類基本調査

国土調査法に基づき、土地利用の現況、土地の自然条件（地形、表層地質、土壌など）などを調査した成果を地図や解説書にまとめたものです。当館では以下のものを含め、新潟県内全27地域のもを所蔵しています。いずれも縮尺は5万分の1です。資料内には地形分類図や土地利用現況図、土壌図などの複数の地図が付いていますが、内容を理解するのに専門的な知識が必要なものも多く、一般の方の利用にはあまり向かないかもしれません。

- ・『下越開発地域土地分類基本調査（国土調査）』新津5万分の1 新潟県農地部農地建設課／編 新潟県農地部農地建設課 1975  
[N454／N72]
- ・『新潟県中越地域土地分類基本調査（国土調査）』十日町5万分の1 新潟県農地部農地整備課／編 新潟県農地部農地整備課 1978 [N454／6]

また、Webサイト「地理院地図」（国土地理院）  
[ <https://maps.gsi.go.jp/#5/35.362222/138.731389/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0l0u0t0z0r0f0> ] より、各地域の土地条件図、活断層図、標高図などを見ることができます。

## 2 土地の歴史・災害地名を調べる

土地の歴史や地名の由来となった自然条件など（地誌）を知るには、以下のような地名事典類や災害地名に関する資料が役立ちます。  
※ただし科学的な裏付けがない言い伝えなどを根拠にしている場合もあるため、あくまで参考情報としてご利用ください。

- ・『新潟県の地名』日本歴史地名大系 第15巻 平凡社／編 平凡社 1986 [R291/N71/15]
- ・『角川日本地名大辞典』15 新潟県 「角川日本地名大辞典」編纂委員会／編 角川書店 1989 [R291/Ka14/15]
- ・『新潟県地名考』五十嵐秀太郎／著 恒文社 1995 [N29\*0/I23]  
\* p173～182「窪地・湿地地名」、p182～187「断崖・崩壊地名」
- ・『地名は警告する』日本の災害と地名 谷川健一／編 富山房インターナショナル 2013 [N291/Ta87]  
\* p137～156「新潟県に於ける災害の痕跡とその地名」
- ・「災害地名 中越地震・中越沖地震等」中根洋治／著 『越佐の地名』15号 新潟県地名研究会 2015 p140～153
- ・『あぶない地名』災害地名ハンドブック 小川豊／著 三一書房 2012 [291/O24]
- ・『災害・崩壊・津波地名解』地名に込められた伝言 太宰幸子／著 彩流社 2013 [291/D49]
- ・『地名は災害を警告する』由来を知りわが身を守る 遠藤宏之／著 技術評論社 2013 [291/E59]

### 3 地図類で昔の様子を調べる

古い住宅地図や地形図、航空写真集を見ることでも、その土地の昔の様子を知ることができます。古い住宅地図については、調査相談カウンターへ請求してください。また、航空写真集については、別冊の調べものヒント集「新潟県の古写真(明治期～昭和30年代)を探す【附】航空写真を探す」をご参照ください。

また、**土地利用図**でも当時の様子を知ることができます。土地利用図とは、都市の機能分類、農地林地の植生区分などの土地利用の状態を表現した地図です。地図発行当時、その土地が住宅地区だったのか田畑だったのかなどを知ることができます。利用状況によって色分けされているため、視覚的にわかりやすい地図です。当館では県内各地域のものを所蔵しています(昭和40～60年代に発行)。細かい所蔵状況については、当館ホームページ内「地図目録」

([https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page\\_id=536](https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=536))を参照していただくか、調査相談窓口にお問い合わせください。なお、「地図目録」に掲載されていませんが、『新潟-土地利用図-』建設省国土地理院／編 建設省国土地理院 1967 [NM614/K e 51] (縮尺：5万分の1)も所蔵しています。ただし、こちらは閲覧の際に申請が必要です。



## 4 ハザードマップを調べる

ハザードマップとは、一般的に「自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図」とされています。当館では、以下のハザードマップ類を所蔵しています。

- ・『災害ハザードマップ』洪水津波地震 聖籠町／[編] 聖籠町  
2014 [N369/S e 19]
- ・『長岡市洪水避難地図』洪水ハザードマップ 北東部版 長岡市危機管理防災本部／[編] 長岡市危機管理防災本部 2008 [N369/N18]
- ・『長岡市洪水避難地図』洪水ハザードマップ 南西部版 長岡市危機管理防災本部／[編] 長岡市危機管理防災本部 2008 [N369/N18]
- ・『長岡市洪水避難地図』洪水ハザードマップ 北西部版 長岡市危機管理防災本部／[編] 長岡市危機管理防災本部 2008 [N369/N18]
- ・『長岡市津波避難地図』津波ハザードマップ ver. 2 長岡市危機管理防災本部／[編] 長岡市危機管理防災本部 2014 [N369/N18]
- ・『三条市豪雨災害対応ガイドブック』三条市総務部行政課防災対策室／企画・編集, アイ・ディー・エー社会技術研究所／企画・編集 三条市 2011 [N369/S a 64]
- ・『新潟県内液状化しやすさマップ』国土交通省北陸地方整備局企画部／編, 地盤工学会北陸支部／編 国土交通省北陸地方整備局企画部, 地盤工学会北陸支部 2012 [N511/K o 45]

ハザードマップとは少し異なりますが、以下の資料などには過去の水害で実際に被害があった地域が地図上に示されています。ほかの新潟県内の過去の災害記録資料の中にも、被害があった地域が図示されている場合があります。

- ・『新潟県浸水実績図』平成5年9月 新潟県土木部河川課／編 新潟県土木部河川課 1993 [N517／N725]
- ・『浸水実績図』新潟地区・白根・鯖石川流域・柿崎川流域・関川流域 新潟県土木部河川課／[編] 新潟県土木部河川課 1998 [N517／N724]
- ・『8・4水害浸水状況詳細図』新潟県新潟土木事務所 1999 [N57／N725]

新潟県のホームページでも、洪水で河川が氾濫した場合にどのように浸水するかを示した「新潟県内の浸水想定区域図」  
[<http://www.pref.niigata.lg.jp/kasenkanri/1233086526002.html>]  
を公開しています。

また、新潟県内の多くの自治体ホームページでハザードマップ類が公開されており、新潟県のホームページ内「県内市町村のハザードマップ」  
[<http://www.pref.niigata.lg.jp/kasenkanri/1233691298080.html>]  
や「国土交通省ハザードマップポータルサイト」  
[<https://disaportal.gsi.go.jp/>]（洪水、津波、土砂災害などの種類別にハザードマップへのリンクが表示されます）から現在住んでいる自治体のハザードマップを探ることが可能です。



平成30年3月

新潟県立図書館 作成

新潟市中央区女池南3-1-2

TEL 025-284-6001 (代表)

<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>